

科目名	教育学		
担当教員	須田 昌子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
人間が成長する上で、本人を取り巻く環境や人間関係の及ぼす影響は大きい。その重要性について認識を深め、人との関わり方について考える。学校教育に関わる様々な現象に触れ、学校の抱える問題について考える。			
到達目標			
1. 人間の成長について理解し、自身の成長過程を家庭、学校、社会の中で位置づけることができる			
2. 教育という現象を、多面的にとらえわかりやすい言語表現で伝えることができる			
授業の形式・方法			
講義・発表・レポート			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（55％）レポート（35％）（発表10％）			
※不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
なし			
講義中資料を配布します			

コマ	履修内容	教員
1	教育とは 生徒指導の意義・目的	須田
2	教育とは 生徒指導の方法	須田
3	家庭教育 家庭教育の意義・子どもの社会化と家庭教育	須田
4	家庭教育 現代の家庭と教育の問題	須田
5	障がい児教育 心身障がい児の教育	須田
6	障がい児教育 発達障害	須田
7	教育学発表	須田
8	履修認定	須田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	総合科学		
担当教員	中村 正雄 阿部 修		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要 化学と物理に関する基礎的知識を習得し、看護実践へ応用できるようにする。			
到達目標 1. 自然の中で起きている化学反応の理解を深める 2. 医療・看護に用いられる有機化学反応を理解する 3. 物理学の基礎理論を理解する 4. 看護に応用される物理的知識を習得する			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 化学50%(筆記試験)/物理学50% (筆記試験40・課題10) * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ 物理学の概念を理解するには、復習が大切です。レポート課題を自力で解けるように復習に心がけてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
化学：生命と環境	林 要喜知	三共出版	
物理学：物理学	豊岡 了ほか	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	原子と分子	中村
2	分子と構造	中村
3	化学結合	中村
4	物質の三態と気体の性質	中村
5	溶液と化学反応	中村
6	塩・酸・アルカリと電解質	中村
7	無機物質と放射性元素	中村
8	量の単位と数値の扱い方 ・単位の必要性 ・数値の扱い方	阿部
9	運動と力 ・等速直線運動 ・力と加速度 ・等加速度運動 ・力のつり合い	阿部
10	運動と力 ・力のモーメント ・仕事とエネルギー ・圧力	阿部
11	熱 ・熱と温度 ・熱と仕事	阿部
12	音と光 ・音の伝わり方 ・光の反射と屈折	阿部
13	電気と磁気 ・電気とはなにか ・磁気とはなにか	阿部
14	放射線 ・原子核と放射線 ・放射線の人体への影響 ・医療における放射線の利用	阿部
15	履修認定	中村 阿部

科目名	生命科学		
担当教員	林 要喜知		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
看護の対象である人間を理解するために、細胞レベルから生物としての人間を理解する必要がある。 そのため、「生物の原則」や「ヒトに関する基本」から始まって、「遺伝と倫理」、「生活習慣病」、「感染症」などを理解し、専門基礎科目への導入を速やかにする。			
到達目標			
1. 細胞の構造と細胞小器官の働きを説明できる 2. ヒトの発生について理解できる 3. 生物に関する倫理的課題がわかる			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
遺伝という計算が難しいというイメージで毛嫌いする学生も多いかもしれません。本講義では、遺伝現象がどのような意味があるかを易しく解説しますので、是非、興味をもてる現象を見つけて下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
(参) ヒトの遺伝	中込 弥男	岩波新書	
(参) エピジェネティクス	仲野 徹	岩波新書	
(参) 生命と環境	林 要喜知	三共出版	

コマ	履修内容	教員
1	生命の起源 今日なぜ多種多様な生物が存在するかを理解する。	林
2	体細胞分裂と減数分裂 体細胞分裂や配偶子形成のための減数分裂の違いを学ぶ。	林
3	受精と発生 受精後の生物はどのように発生するかを学ぶ。	林
4	遺伝学の基礎 遺伝現象の歴史や概略を学ぶ。	林
5	メンデル遺伝 常染色体優性遺伝と常劣性遺伝について学ぶ。	林
6	メンデル遺伝 連鎖優性遺伝と常劣性遺伝について学ぶ。	林
7	非メンデル遺伝 多因子遺伝と体細胞遺伝について学ぶ。	林
8	非メンデル遺伝 エピジェネティクスによる遺伝性疾患について学ぶ。	林
9	染色体異常症 染色体異常症の分類や特徴について学ぶ。	林
10	出生前診断 染色体異常症の検査方法について学ぶ。	林
11	遺伝カウンセリング 遺伝カウンセリングの内容と具体的な例について学ぶ。	林
12	環境汚染 環境汚染やアレルギー性疾患について学ぶ。	林
13	生活習慣病 生活スタイルと病気の関係から幾つかの生活習慣病について学ぶ。	林
14	新興・再興感染症 世界の脅威となる感染症の実体を具体例を挙げて学ぶ。	林
15	履修認定	林

科目名	情報科学		
担当教員	野口 智弘		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要 情報通信技術を取り入れ、情報を活用するための基本的な知識や技能を身につける			
到達目標 情報通信技術における個人情報保護の方法を理解する基本的な文章・統計処理・プレゼンテーションができる			
授業の形式・方法 講義、演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 別巻 看護情報学	中山 和弘	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	情報と情報化社会	野口
2	情報と倫理① 情報倫理 個人情報の保護	野口
3	情報と倫理② コンピュータリテラシーとセキュリティ	野口
4	医療における情報システム	野口
5	情報処理① 演習 Excelによる統計解析	野口
6	情報処理② 演習 パワーポイントによるプレゼンテーション	野口
7	情報処理③ 演習 Wordによる報告	野口
8	履修認定	野口
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	文章構成法		
担当教員	片山 礼子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
論理的思考・文章読解力・文章表現能力を養い、自己の考えを適切に表現し、事実を適切かつ、客観的に表現する能力を養う。			
到達目標			
1.言葉の知識を身につけ、必要な場面で適切に用いることができる 2.自らの考えを的確に表現することができる 3.レポートの作成、構成をすることができる			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
文章の読解力、表現能力を学びましょう			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
看護学生のためのレポート 書き方教室	江原勝幸	照林社	

コマ	履修内容	教員
1	レポートとは/5W2Hと良い文章の5つの要素 能動・受動と 5 W2H	片山
2	文章の主体性と主語の明確化	片山
3	句点・読点と段落	片山
4	漢字、ひらがな、カタカナ 専門用語、外来語、略語	片山
5	こそあど言葉、てにをは 接続詞、比喻	片山
6	数字、図・表 疑問符、感嘆符、くくり記号、漢数字	片山
7	レポートの特徴と作成のポイント レポートの種類と形式	片山
8	履修認定	片山
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	英語Ⅰ		
担当教員	野村 幸輝		
実務経験	英語通訳		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	前期	1	15
履修目的・授業概要			
英語を用いた表現方法や意思疎通の技術を学び、豊かな自己表現の能力を養う。現代日本における命をめぐる諸問題と、それらへのケアに関する英文を読み、理解することを目的とする。			
到達目標			
上記の諸問題への理解を深め、ケアする心を養う。また、英語の読解力、文法力、語彙力、正しい発音を習得する。			
授業の形式・方法			
講義、グループワーク、ペアワーク、DVD鑑賞			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
すべての講義に出席しましょう。 みなさんの積極的な授業参加を期待します！			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
英語で読む日本社会と命	野村幸輝	(株)岡本印刷	
※講義開始時販売			

コマ	履修内容	教員
1	愛を知ること 山下弘子	野村
2	孤立死に対して僕らができること	野村
3	すべての命を救いたい 上山博康	野村
4	音楽療法の効用と歴史	野村
5	人生の最期に聴く音楽 佐藤由美子	野村
6	病棟の笑いセラピスト	野村
7	運命を宿命に変える 林 志郎	野村
8	履修認定	野村
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	心理学		
担当教員	池上 将永		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
・現代心理学の基礎知識を習得する。 ・人間の心や行動を研究するための方法論を学ぶ。			
到達目標			
自分自身の心のあり方や行動に対する理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
実際に実験や心理テストを実施することもあります。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
なし			
資料を配布します			

コマ	履修内容	教員
1	「心理学」とは何か	池上
2	知覚Ⅰ（物理的世界と知覚）	池上
3	知覚Ⅱ（知覚の情報処理的研究）	池上
4	記憶と忘却	池上
5	学習心理学Ⅰ（古典的条件づけ・オペラント条件づけ）	池上
6	学習心理学Ⅱ（認知学習・社会的学習理論）	池上
7	動機づけ	池上
8	感情の科学	池上
9	社会心理学Ⅰ（社会行動の発達）	池上
10	社会心理学Ⅱ（対人魅力と対人関係）	池上
11	パーソナリティの心理学	池上
12	臨床心理学Ⅰ（こころの病とは）	池上
13	臨床心理学Ⅱ（心理療法入門）	池上
14	脳とこころ	池上
15	筆記試験	池上

科目名	社会学		
担当教員	神田浩路		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1 年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
本講義では、看護職として必要な保健医療における社会文化的側面について、国内外の事例を基に考え、履修生自身の将来の医療実践につなげることを目的とする。			
到達目標			
様々な社会、文化、風習、価値観があることを学び、より広い視野を持ち、また社会学的な視点から保健医療について理解できる。			
授業の形式・方法			
講義とグループワークによる。			
成績評価の方法・基準			
出席点（授業中のレポート、30％）、グループワーク発表（30％）、期末試験（40％）による。			
学生へのメッセージ			
Think globally, act locally and globallyの視点を持って、社会と健康について考えていただければと思います。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
(参) カミング・ブレイグー迫りくる病原体の恐怖〈上〉	ローリー・ギャレット	河出書房新社	
(参) カミング・ブレイグー迫りくる病原体の恐怖〈下〉	ローリー・ギャレット	河出書房新社	
(参) 実践グローバルヘルスー現場における実践力向上をめざしてー	日本国際保健医療学会 編	杏林書院	

コマ	履修内容	教員
1	社会学とは 世界の中の日本	神田
2	社会を観察する グローバルヘルス	神田
3	問題を発見する 様々な健康の決定要因	神田
4	多様性を理解する 健康と人権、ダイバーシティ	神田
5	実証的調査を行う 医療人類学、社会調査法、研究倫理	神田
6	社会と健康① アジア（１）	神田
7	社会と健康② アジア（２）	神田
8	社会と健康③ アフリカ	神田
9	社会と健康④ 中南米・アメリカ	神田
10	グループワーク① 課題設定、資料準備	神田
11	グループワーク② 資料準備	神田
12	グループワーク③ 資料準備、発表練習	神田
13	グループワーク発表①	神田
14	グループワーク発表②	神田
15	履修認定	神田

科目名	人間関係論		
担当教員	三上あすか		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1 年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
多様化する社会の中で、患者のもつ価値観や期待を理解し、尊重することは重要になっている。ケアの実践においては、患者との関係はもちろん、多職種連携をしていく事が不可欠である。自己と他者を理解し、人間関係を形成するために必要な知識を学ぶ。			
到達目標			
1. 人間関係の基礎となる心理学の概念を理解する			
2. 人間関係の基礎となる理論を理解する			
3. 人間関係をつくるために役立つ理論を理解する			
4. 人間関係をつくるために役立つ技法を活用できる			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
レポート（40％）課題提出（20％）			
技術試験（30％）授業参加態度（10％）			
＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
人間関係を構築するための技法を学びます。実習などで患者さんと関わる時に活用できる技法がたくさん出てきます。積極的に演習に参加して、皆さんと一緒に学んでいきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎分野 人間関係論	長谷川 浩	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	人間関係の中の自己と他者	三上
2	対人関係と役割 態度と対人行動	三上
3	集団と個人	三上
4	人間関係をつくる理論と技法(1) コミュニケーションとは	三上
5	人間関係をつくる理論と技法(2) マイクロカウンセリング	三上
6	人間関係をつくる理論と技法(3) カウンセリング・心理療法の理論とスキル①	三上
7	人間関係をつくる理論と技法(4) カウンセリング・心理療法の理論とスキル②	三上
8	人間関係をつくる理論と技法(5) 保健医療チームの人間関係	三上
9	患者を支える人間関係(1) 患者－看護師関係成立のための看護技術	三上
10	患者を支える人間関係(2) リフレクション、プロセスレコード	三上
11	患者を支える人間関係(3) 様々な看護場面における人間関係①	三上
12	患者を支える人間関係(4) 様々な看護場面における人間関係②	三上
13	患者を支える人間関係(5) コミュニケーション技術演習	三上
14	患者を支える人間関係(6) 様々な看護場面における人間関係③	三上
15	履修認定レポート 技術試験	三上

科目名	スポーツ科学		
担当教員	小谷 克彦		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1 年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
スポーツにおける様々な事象を心理学の視点から改めて見直すことを通して、不適応やメンタルヘルスなどの現代的な健康課題を捉える手がかりを得ることを狙いとする。			
到達目標			
スポーツにおける様々な事象を心理学の視点から検討し、心と身体についての理解を深める			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
健康や体力の維持・増進を図るための知識やスキルを身に付け、自ら進んで生活習慣の改善に取り組んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
必要に応じて資料を配布する			

コマ	履修内容	教員
1	スポーツと物語	小谷
2	スポーツと不安	小谷
3	スポーツと怪我	小谷
4	スポーツとスランプ	小谷
5	スポーツと身体①	小谷
6	スポーツと身体②	小谷
7	スポーツと戦い	小谷
8	履修認定	小谷
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	解剖生理学Ⅰ		
担当教員	古部 瑛莉子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1 年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
正常人体の主要器官・組織の正常機能とそのしくみの概要を説明できることを目的とする。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。解剖生理学Ⅰでは人体を構成する細胞、組織、器官の各構造を学んだあと、消化器・血液・体液、循環器の構造を中心に学習する。			
到達目標			
人体の形態や構造を正確に理解する 1. 消化器の構造を理解する 2. 血液・体液を理解する 3. 循環器の構造を理解する			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％） 講義時間中に簡単な確認テストや小テストを行う際には前もって通知する。 * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	坂井健雄	医学書院	
(参) 人体の解剖生理学	木山博資、遠山正彌	金芳堂	

コマ	履修内容	教員
1	解剖生理学のための基礎知識 身体の構造 細胞	古部
2	解剖生理学のための基礎知識 動物機能と植物機能の器官系 体液	古部
3	栄養の消化と吸収 口・咽頭・食道の構造	古部
4	栄養の消化と吸収 腹部消化管の構造	古部
5	栄養の消化と吸収 膵臓・肝臓・胆嚢の構造	古部
6	栄養の消化と吸収 膵臓・肝臓・胆嚢の構造 腹膜	古部
7	呼吸と血液のはたらき 呼吸器の構造	古部
8	呼吸と血液のはたらき 呼吸	古部
9	呼吸と血液のはたらき 血液・リンパ	古部
10	呼吸と血液のはたらき 血液・リンパ	古部
11	血液の循環 心臓	古部
12	血液の循環 心臓の血管と神経	古部
13	血液の循環 末梢循環の構造	古部
14	血液の循環 リンパとリンパ管	古部
15	履修試験	古部

科目名	解剖生理学Ⅱ		
担当教員	古部 瑛莉子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1 年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
正常人体の主要器官・組織の正常機能とそのしくみの概要を説明できることを目的とする。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。解剖生理学Ⅱでは泌尿生殖器、内分泌、運動器、神経系、感覚器について中心に学ぶ。			
到達目標			
人体の形態や構造を正確に理解する 1. 泌尿生殖器の構造を理解する 2. 運動器系の構造を理解する 3. 神経系・感覚器系の構造を理解する			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％） 講義時間中に簡単な確認テストや小テストを行う際には前もって通知する。 * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	坂井健雄	医学書院	
(参) 人体の解剖生理学	木山博資、遠山正彌	金芳堂	

コマ	履修内容	教員
1	体液の調整と尿の生成 腎臓	古部
2	体液の調整と尿の生成 排尿路	古部
3	内臓機能の調整 内分泌系	古部
4	内臓機能の調整 内分泌系	古部
5	身体の支持と運動 骨と骨格①	古部
6	身体の支持と運動 骨と骨格②	古部
7	身体の支持と運動 筋①	古部
8	身体の支持と運動 筋②	古部
9	情報の受容と処理 神経系の構造	古部
10	情報の受容と処理 脊髄と脳	古部
11	感覚器①	古部
12	感覚器②	古部
13	発生①	古部
14	発生②	古部
15	履修試験	古部

科目名	解剖生理学Ⅲ		
担当教員	千葉 弓子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
生体の機能とそのメカニズムについて学ぶ。解剖生理学Ⅲでは、消化器・呼吸器・循環器・腎泌尿器・生殖器系・免疫・内分泌を中心に学ぶ。			
到達目標			
各臓器における機能を理解する。			
1. 消化器系 2. 呼吸器系 3. 循環器系 4. 腎泌尿器系 5. 生殖器系 6. 免疫系 7. 内分泌系			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の知識であり，臨床医学を学ぶ上での土台です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	坂井健雄	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	生理学総論	千葉
2	消化と吸収①	千葉
3	消化と吸収②	千葉
4	消化と吸収③	千葉
5	呼吸器系の機能①	千葉
6	呼吸器系の機能②	千葉
7	循環器系の機能①	千葉
8	循環器系の機能②	千葉
9	腎泌尿器系の機能①	千葉
10	腎泌尿器系の機能②	千葉
11	生殖器系の機能	千葉
12	免疫の機能	千葉
13	内分泌①	千葉
14	内分泌②	千葉
15	筆記試験	千葉

科目名	解剖生理学Ⅳ		
担当教員	野口 智弘		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1 年	前期	1	30
履修目的・授業概要 人間の健康な状態を把握するために、人体の構成要素、骨格筋・神経・感覚器・運動機能の生理機能を系統的に学ぶ。			
到達目標 運動における神経系，筋活動，感覚器系の生理反応について理解できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） ＊ 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	坂井健雄	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	浸透圧と膜電位	野口
2	活動電位とCa ²⁺ シグナリング	野口
3	神経回路の情報処理	野口
4	脳の機能局在	野口
5	運動の発言と制御	野口
6	視覚	野口
7	聴覚・平衡覚	野口
8	味覚・嗅覚	野口
9	体性感覚	野口
10	リハビリと感覚	野口
11	脊髄反射	野口
12	自律神経	野口
13	内分泌	野口
14	本能行動	野口
15	履修認定	野口

科目名	生化学		
担当教員	鈴木 裕		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要 栄養と代謝について理解し、代謝産物の排泄について学ぶ。			
到達目標 1. 生体構成成分の構造と機能を理解できる 2. 糖質、脂質、タンパク質の体内での合成、分解を理解できる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
よくわかる専門基礎講座 生化学	津田道雄	金原出版	

コマ	履修内容	教員
1	序論:生化学で何を学ぶか、細胞	鈴木
2	生体構成物質	鈴木
3	酵素とは	鈴木
4	糖代謝 1	鈴木
5	糖代謝 2	鈴木
6	脂質代謝	鈴木
7	脂質代謝、コレステロール	鈴木
8	アミノ酸たんぱく質代謝	鈴木
9	核酸代謝	鈴木
10	セントラルドグマ	鈴木
11	ビタミン	鈴木
12	ホルモン	鈴木
13	水と無機物	鈴木
14	脱水、無機物	鈴木
15	履修認定	鈴木

科目名	微生物学		
担当教員	吉田 逸朗		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要 病原微生物の感染のメカニズム、これに対する生体の防御反応、ならびに滅菌、消毒などについて学び、感染症の発生と予防に関する基礎知識を習得する。			
到達目標 1. 細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア及びウイルスに属する病原微生物の性状を理解し、感染症発生機序を理解できる 2. 感染症の予防対策が理解できる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学	吉田眞一	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	病原微生物学序論	吉田
2	細菌学総論 1 細菌の生物学	吉田
3	細菌学総論 2 細菌感染の成立と予防	吉田
4	細菌学総論 3 滅菌・消毒論	吉田
5	細菌学総論 4 滅菌・消毒論	吉田
6	細菌学総論 5 化学療法の基礎	吉田
7	感染防御免疫と感染予防対策	吉田
8	細菌学各論 1 ヒト病原球菌	吉田
9	細菌学各論 2 ヒト病原桿菌	吉田
10	マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア	吉田
11	真核生物病原体	吉田
12	ウイルス学総論 ウイルスの生物学/ウイルス感染症の予防	吉田
13	ウイルス学各論 1 DNAウイルス	吉田
14	ウイルス学各論 2 RNAウイルス	吉田
15	履修認定	吉田

科目名	疾病論総論		
担当教員	旭川医科大学 病理学講座 後藤正憲 上小倉 昌代		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	15
履修目的・授業概要 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を理解する。			
到達目標 1. 病理学とはどのような学問か理解できる 2. 主要病態の原因・発症メカニズム・形態学的変化および機能的変化、臨床的事項がわかる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学	大橋健一	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	序論・細胞障害	医大 病理学講座
2	組織修復・再生	医大 病理学講座
3	循環障害	医大 病理学講座
4	免疫とその異常	医大 病理学講座
5	感染症	医大 病理学講座
6	腫瘍	医大 病理学講座
7	遺伝性疾患・先天性疾患	医大 病理学講座
8	履修認定	医大 病理学講座
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	疾病論各論Ⅰ		
担当教員	旭川医科大学病院呼吸器センター 旭川医科大学 内科学講座 青沼達也／畑山真弓		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	30
履修目的・授業概要 呼吸器系、循環器系、血液・造血器系の疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、診断・治療の方法を理解する。各単元とも1.代表的疾患の病態生理と主な症状、2.疾患を診断する主な検査、3.主な治療を講義内容とし、それらを関連付けて教授する。			
到達目標 呼吸器系、循環器系、血液・造血器系疾患において 1. 主要な疾患の病態がわかる 2. 主要な疾患の診断、治療が理解できる 3. 主要疾患の対象への看護を考えることが出来る			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
成人看護学[2]呼吸器	川村雅文	医学書院	
成人看護学[3]循環器	吉田俊子	医学書院	
成人看護学[4]血液・造血器	飯野京子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	呼吸器疾患①	医大 呼吸器センター
2	呼吸器疾患②	医大 呼吸器センター
3	呼吸器疾患③	医大 呼吸器センター
4	呼吸器疾患④	医大 呼吸器センター
5	呼吸器疾患⑤	医大 呼吸器センター
6	循環器疾患①	医大 青沼
7	循環器疾患②	医大 青沼
8	循環器疾患③	医大 青沼
9	循環器疾患④	医大 青沼
10	循環器疾患⑤	医大 青沼
11	血液・造血器疾患①	医大 畑山
12	血液・造血器疾患②	医大 畑山
13	血液・造血器疾患③	医大 畑山
14	血液・造血器疾患④	医大 畑山
15	履修認定	医大 内科学講座

科目名	疾病論各論Ⅱ		
担当教員	旭川医科大学 内科学講座 /菊地史織/滝山貴央・佐藤翼 脳神経外科学講座 木下学		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	30
履修目的・授業概要 消化器系の疾患、脳・神経系疾患、内分泌・代謝疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。各単元とも1.代表的疾患の病態生理と主な症状、2.疾患を診断する主な検査、3.主な治療を講義内容とし、それらを関連付けて教授する。			
到達目標 運動器系・自己免疫系疾患において 1. 主要な疾患の病態がわかる 2. 主要な疾患の診断、治療が理解できる 3. 主要疾患の対象への看護を考えることが出来る			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
成人看護学[5]消化器	南川雅子	医学書院	
成人看護学[6]内分泌・代謝	吉岡成人	医学書院	
成人看護学[7]脳・神経	井出隆文	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	消化器疾患①	医大 内科学講座
2	消化器疾患②	医大 内科学講座
3	消化器疾患③	医大 内科学講座
4	消化器疾患④	医大 内科学講座
5	脳・神経系疾患 神経内科分野	医大 菊地
6	脳・神経系疾患 神経内科分野	医大 菊地
7	脳・神経系疾患 脳神経外科分野	医大 木下
8	脳・神経系疾患 脳神経外科分野	医大 木下
9	脳・神経系疾患 脳神経外科分野	医大 木下
10	脳・神経系疾患 脳神経外科分野	医大 木下
11	内分泌・代謝疾患①	医大 滝山
12	内分泌・代謝疾患②	医大 滝山
13	内分泌・代謝疾患③	医大 佐藤
14	内分泌・代謝疾患④	医大 佐藤
15	履修認定	医大 内科・脳外

科目名	疾病論各論Ⅲ		
担当教員	大田哲生(旭川医科大学病院) 旭川医科大学 内科学講座 岡本健作・池知佑太・川幡智樹		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
自己免疫系疾患、運動器系の疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し治療の方法を理解する。各单元とも1.代表的疾患の病態生理と主な症状、2.疾患を診断する主な検査、3.主な治療 を講義内容とし、それらを関連付けて教授する。			
到達目標			
運動器系・自己免疫系疾患において			
1. 主要な疾患の病態がわかる			
2. 主要な疾患の診断、治療が理解できる			
3. 主要疾患の対象への看護を考えることが出来る			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
＊ 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
成人看護学[10]運動器	田中栄	医学書院	
成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症	岩田健太郎	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	運動器系疾患①	大田
2	運動器系疾患②	大田
3	運動器系疾患③	大田
4	運動器系疾患④	大田
5	自己免疫系疾患①	医大 岡本
6	自己免疫系疾患②	医大 池知
7	自己免疫系疾患③	医大 川幡
8	履修認定	医大
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	疾病論各論Ⅳ		
担当教員	旭川医科大学 腎泌尿器外科学講座 眼科学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座・皮膚科学講座 松田光悦・山崎知文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
感覚器系疾患、腎・泌尿器系、女性生殖器系の疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。各単元とも1.代表的疾患の病態生理と主な症状、2.疾患を診断する主な検査、3.主な治療を講義内容とし、それらを関連付けて教授する。			
到達目標			
腎泌尿器系・女性生殖器奇形・感覚器系疾患において			
1. 主要な疾患の病態がわかる			
2. 主要な疾患の診断、治療が理解できる			
3. 主要疾患の対象への看護を考えることができる			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
成人看護学[8]腎・泌尿器成人看護学[9]女性生殖器	大東貴志 末岡 浩	医学書院	
成人看護学[12]皮膚 成人看護学[13]眼	渡辺晋一 大鹿哲郎	医学書院	
成人看護学[14]耳鼻咽喉 成人看護学[15]歯・口腔	渋谷絹子 小松浩子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	腎・泌尿器系疾患①	医大 腎泌尿器
2	腎・泌尿器系疾患②	医大 腎泌尿器
3	腎・泌尿器系疾患③	医大 腎泌尿器
4	腎・泌尿器系疾患④	医大 腎泌尿器
5	腎・泌尿器系疾患⑤	医大 腎泌尿器
6	女性生殖器系疾患①	山崎
7	女性生殖器系疾患②	山崎
8	女性生殖器系疾患③	山崎
9	女性生殖器系疾患④	山崎
10	女性生殖器系疾患⑤	山崎
11	感覚器系疾患：眼疾患	医大 眼科学講座
12	感覚器系疾患：耳鼻咽喉系疾患	医大 耳鼻
13	感覚器系疾患：皮膚疾患	医大 皮膚
14	歯・口腔系疾患	松田
15	履修認定	医大 山崎・松田

科目名	治療論Ⅰ（薬理学）		
担当教員	外部講師(薬剤師) 旭川医科大学病院薬剤部		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	30
履修目的・授業概要 薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。			
到達目標 1. 代表的な薬剤の薬理作用が理解できる 2. 各症状・疾患に使用する薬剤が理解できる 3. 薬物の管理方法が理解できる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学	吉岡充弘	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	薬理学の概念	医大病院 薬剤部
2	薬の投与経路と吸収	医大病院 薬剤部
3	製剤と処方・薬剤の管理	医大病院 薬剤部
4	呼吸器・消化器・生殖器系作用薬	医大病院 薬剤部
5	抗がん剤	医大病院 薬剤部
6	免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	医大病院 薬剤部
7	循環器薬①	医大病院 薬剤部
8	循環器薬②	医大病院 薬剤部
9	末梢神経作用薬	医大病院 薬剤部
10	中枢神経作用薬	医大病院 薬剤部
11	抗感染症薬	医大病院 薬剤部
12	物質代謝作用薬	医大病院 薬剤部
13	皮膚科用薬・眼科用薬・救急用薬	医大病院 薬剤部
14	漢方薬・消毒薬	医大病院 薬剤部
15	履修認定	医大病院 薬剤部

科目名	治療論Ⅱ（栄養学）		
担当教員	豊田 靖子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
健康にとっての栄養の意義と病態栄養について理解し、ホメオスタシスについて考えることができる。			
到達目標			
1.各栄養素の意義を学び生体に与える影響を理解する			
2. 各ライフステージにおける栄養学的留意点を理解できる			
3. 治療としての食生活を理解できる			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
* 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学	中村丁次	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	人間栄養学と看護	豊田
2	栄養素の種類とはたらき① 糖質 脂質 タンパク質	豊田
3	栄養素の種類とはたらき② ビタミン ミネラル 食物繊維 水	豊田
4	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	豊田
5	エネルギー代謝	豊田
6	食事と食品① 食事摂取基準 食品群 食品に含まれる栄養素	豊田
7	食事と食品② 食品の調理 健康づくりと食生活 食品表示	豊田
8	栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定	豊田
9	ライフステージと栄養① 成長と発達 乳児期～学童期	豊田
10	ライフステージと栄養② 思春期～老年期	豊田
11	臨床栄養 チームで取り組む栄養管理・病院食・栄養補給法	豊田
12	疾患・症状別食事療法① やせ・低栄養・肥満・メタリックシンドローム	豊田
13	疾患・症状別食事療法② 循環器疾患・消化器疾患・栄養代謝疾患	豊田
14	疾患・症状別食事療法③腎疾患・血液疾患 場面別の栄養管理	豊田
15	履修認定	豊田

科目名	社会福祉論		
担当教員	稲積 圭一		
実務経験			
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前期	1	8
履修目的・授業概要 わが国における福祉の動向を捉え、社会福祉に関する法制度、諸問題などについての理解を含める。			
到達目標 現代社会の中での福祉的な問題を理解する 社会福祉の理念を理解する。 社会福祉援助技術について理解する。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験 ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統別看護学講座 健康支援と社会保障制度 (3) 社会保障・社会福祉	福田 素生	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	生活を支える仕組み 社会保障制度を中心とする生活を支える仕組みと理念について学ぶ	稲積
2	社会福祉の歴史 戦後社会の変化と、それに伴う福祉ニーズ、制度の変化を学ぶ	稲積
3	少子高齢化問題 現在の日本が直面する少子高齢化問題について学ぶ	稲積
4	自立支援と権利擁護 現代の社会福祉を支える理念とそれを支える仕組みについて学ぶ	稲積
5	更生保護 犯罪の動向と社会復帰に向けた援助の施策について学ぶ	稲積
6	児童と家庭の福祉 児童とその育つ環境である家庭に対する福祉施策を学ぶ	稲積
7	障害者福祉 障害者福祉施策を学ぶ	稲積
8	履修認定	稲積
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	社会保障論		
担当教員	稲積 圭一		
実務経験			
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後期	1	8
履修目的・授業概要			
わが国における福祉の動向を捉え、医療との関わりを中心に社会福祉に関する法制度、諸問題などについての理解を含める。			
到達目標			
1. 現代日本の社会保障その他の制度を理解する			
2. 医療制度と社会福祉、社会保障制度との関わりを理解する。			
3. 社会保障制度の方法と機能、問題点を理解する。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
* 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
社会福祉、社会保障制度はニュースや新聞等でも多く触れられている身近な話題であり、自分たちの生活にも直接関わってくる問題なのだとすることを理解してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統別看護学講座	福田 素生	医学書院	
健康支援と社会保障制度 (3)			
社会保障・社会福祉			

コマ	履修内容	教員
1	社会保険の特徴 日本の様々な社会保険に共通する特徴について学ぶ	稲積
2	社会保障制度と財政問題 日本の財政問題と社会保障制度について学ぶ	稲積
3	医療保障制度 医療保障制度の概要を学ぶ	稲積
4	高齢者医療と介護 後期高齢者医療制度や介護保険などの高齢者を支える仕組みの概要を理解する	稲積
5	年金制度の概要 年金制度の概要を学ぶ	稲積
6	労働保険制度 労働保険制度の概要を理解する	稲積
7	貧困と公的扶助 日本における貧困と公的扶助制度を学ぶ	稲積
8	履修認定	稲積
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	基礎看護学概論		
担当教員	鳴海 薊花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
各看護学の基礎となる、看護の概念を学び、目的・役割・機能を理解する。また、看護実践の基盤となる、倫理および看護職の活動の広がりを学ぶ			
到達目標			
1.看護の定義および理論を知り、看護の概念を理解する			
2.看護の対象である人間を理解し、「健康」「環境」「暮らし」について学ぶ。			
3.看護の役割と機能を学び、看護と社会のつながりを理解する。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
看護とは何か？みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	看護とは ガイダンス・看護の変遷	鳴海
2	看護とは 看護の定義	鳴海
3	看護とは 看護の役割と機能	鳴海
4	看護の対象の理解 人間の「こころ」と「からだ」	鳴海
5	看護の対象の理解 発達し続ける存在としての人間の理解	鳴海
6	看護の対象の理解 人間の「暮らし」の理解／家族・集団・地域	鳴海
7	看護の対象の理解 グループワーク	鳴海
8	国民の健康状態と生活 健康の捉え方	鳴海
9	国民の健康状態と生活 国民の健康状態・ライフサイクル	鳴海
10	看護の提供者 職業としての看護 看護職の資格・養成制度	鳴海
11	看護における倫理	鳴海
12	看護の提供のしくみ チーム医療／サービス提供の場	鳴海
13	看護の提供のしくみ 看護制度・政策・看護管理・医療安全	鳴海
14	広がる看護の活動領域 国際化と看護／災害時における看護	鳴海
15	履修認定	鳴海

科目名	臨床看護総論		
担当教員	鳴海蘭花 原田明奈 畑中亜希美 三上美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要 臨床看護の場で生じている現象は、様々な概念や理論を示す現象・状況が組み合わさっており、複合的である。「健康」「ニーズ」および「あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会」という概念に注目し、それらの関連から臨床看護を理解する。			
到達目標 多様な健康上のニーズをもつあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを理解することができる。			
授業の形式・方法 講義、演習、映像視聴			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 初めての看護実践に対峙する学生のみなさんにとって、看護の対象を理解し、看護学を基盤とした根拠に基づいた看護実践の参考にしてほしいと思います。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論	香春 知永	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	対象者と家族の健康上のニーズと看護 健康状態の経過に基づく看護(1)	鳴海
2	健康状態の経過に基づく看護(2)	鳴海
3	主要な症状を示す対象者への看護(1)	原田
4	主要な症状を示す対象者への看護(2)	原田
5	主要な症状を示す対象者への看護(3)	原田
6	主要な症状を示す対象者への看護(4)	原田
7	主要な症状を示す対象者への看護(5)	原田
8	主要な症状を示す対象者への看護(6)	原田
9	治療・処置を受ける対象者への看護	畑中
10	救命救急処置に関する基礎知識	畑中
11	救命救急処置 演習	畑中
12	事例による看護実践の展開(1)	三上 美
13	事例による看護実践の展開(2)	三上 美
14	事例による看護実践の展開(3)	三上 美
15	履修認定	鳴海 畑中 三上 原田

科目名	基礎看護学方法論Ⅰ		
担当教員	鳴海 繭花 三上 あすか		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
看護援助に共通する看護技術であるコミュニケーション、学習支援を演習を交えながら実施する。対象者・家族の尊厳、価値観を守りながら、意思決定を支援できる基礎とする。			
到達目標			
1.対象者、チーム内の関係において、信頼関係を成立させるための基本技術を理解する			
2.必要な学習を提供し、対象の意思決定を支援する技術を身に付ける			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％） レポート（20％）			
学生へのメッセージ			
一緒に学びながら、より良いコミュニケーションについて考えていきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	看護技術とは何か 看護技術の特徴 実践するための要素	鳴海
2	コミュニケーション 意義・目的/構成要素と成立過程	三上 あ
3	コミュニケーション 関係構築のためのコミュニケーションの基本	三上 あ
4	コミュニケーション 関係構築のためのコミュニケーションの基本	三上 あ
5	コミュニケーション 効果的なコミュニケーションの実際	三上 あ
6	コミュニケーション 効果的なコミュニケーションの実際	三上 あ
7	コミュニケーション ロールプレイ演習	三上 あ
8	コミュニケーション コミュニケーション障害への対応	三上 あ
9	学習支援 看護における学習支援	鳴海
10	学習支援 健康に生きることを支える学習支援	鳴海
11	学習支援 健康状態の変化に伴う学習支援	鳴海
12	学習支援の実際 個人・家族・集団を対象とした学習支援	鳴海
13	学習支援の実際 グループワーク 演習	鳴海
14	学習支援の実際 グループワーク 演習	鳴海
15	筆記試験 技術試験	鳴海 三上あ

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ		
担当教員	坂井 聖康 三上 あすか		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	前期	1	30
履修目的・授業概要			
看護を学ぶにあたり基本となる、医療安全の考え方を中心に学ぶ。演習を取り入れながら、援助の実践を学習する			
到達目標			
1.感染予防の意義を理解し、感染予防行動を原理・原則に沿って実行できる			
2.ケアの場面で起こりやすい事故の発生要因を知る			
3.インシデント・アクシデントを報告する意義と報告時の要点を理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
予習をして授業を受けるようにしてください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	感染防止の技術 感染とその予防の基礎知識	坂井
2	感染防止の技術 標準予防策の基礎知識	坂井
3	感染防止の技術 マスク・流水による手洗い・手指消毒 演習	坂井
4	感染防止の技術 感染経路別予防策	坂井
5	感染防止の技術 感染経路別予防策	坂井
6	感染防止の技術 洗浄・消毒・滅菌	坂井
7	感染防止の技術 感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止・感染管理	坂井
8	感染防止の技術 無菌操作の基礎知識	坂井
9	感染防止の技術 無菌操作 演習	坂井
10	安全確保の技術 安全確保の基礎知識	三上 あ
11	安全確保の技術 誤薬防止、事故防止、患者誤認防止	三上 あ
12	安全確保の技術 転倒・転落防止	三上 あ
13	安全確保の技術 転倒・転落防止の実際 グループワーク 演習	三上 あ
14	安全確保の技術 インシデント・アクシデント報告	三上 あ
15	筆記試験	坂井 三上あ

科目名	基礎看護学方法論Ⅲ		
担当教員	宗像 祐二		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
対象者の状態を正確に判断するために必要な生命徴候や全身状態を系統的に把握するための基本的知識と技術を習得する			
到達目標			
1.バイタルサイン測定の目的・意義を理解し、正確に測定することができる。			
2.フィジカルアセスメントの意義を理解し、系統別アセスメントを行なうための技術を実施することができる。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50％）			
技術試験（50％）			
学生へのメッセージ			
バイタルサインやフィジカルアセスメントは看護の基本となる単位となります。実習でも患者さんを看護する上で基本となる技術なので、一緒に勉強や練習をしていきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	ヘルスアセスメントがもつ意味と観察	宗像
2	フィジカルアセスメントに必要な技術	宗像
3	バイタルサインの観察とアセスメント（1） 援助の基礎知識（体温・脈拍・呼吸）	宗像
4	バイタルサインの観察とアセスメント（2） 援助の基礎知識（血圧・意識）	宗像
5	バイタルサインの観察とアセスメント（3） 援助の実際（演習）	宗像
6	バイタルサインの観察とアセスメント（4） 援助の実際（演習）	宗像
7	計測 計測に関する基礎知識・援助の実際	宗像
8	計測 （演習）	宗像
9	呼吸器系のフィジカルアセスメント 援助の基礎知識・実際	宗像
10	循環器系のフィジカルアセスメント 援助の基礎知識・実際	宗像
11	乳房、腹部のフィジカルアセスメント 援助の基礎知識・実際	宗像
12	筋・骨格、神経系のフィジカルアセスメント 援助の基礎知識・実際	宗像
13	頭頸部、感覚器系・外皮のフィジカルアセスメント 援助の基礎知識・実際	宗像
14	心理・社会状態のアセスメント	宗像
15	筆記試験 技術試験	宗像

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ		
担当教員	三上美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
看護の対象となる人のニーズに応じ、対象にとって必要な看護を見きわめ、実践するための方法論として看護過程を学ぶ。事例をもとに問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的判断、リフレクションといった看護過程を展開する基盤となる考え方を理解する。			
到達目標			
1.看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義を理解する。			
2.看護過程を展開する際に基盤となる考え方を理解する。			
3.看護過程の各段階について、基本的な考え方と実際について学ぶ。			
4.看護記録の目的と留意点、その構成について学ぶ。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）レポート（30％）			
学生へのメッセージ			
看護過程を用いることの意義と、看護を実践するための基本的な考え方について学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	看護過程とは	三上
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	三上
3	看護過程の各段階 ①-1アセスメント（情報収集と分析）	三上
4	看護過程の各段階 ①-2アセスメント（情報収集と分析）	三上
5	看護過程の各段階 ①-3アセスメント（情報収集と分析）	三上
6	看護過程の各段階 ①-4アセスメント（情報収集と分析）	三上
7	看護過程の各段階 ②-1看護問題の明確化	三上
8	看護過程の各段階 ②-2看護問題の明確化	三上
9	看護過程の各段階 ③-1看護計画	三上
10	看護過程の各段階 ③-2看護計画	三上
11	看護過程の各段階 ④実施	三上
12	看護過程の各段階 ⑤評価	三上
13	看護記録 ①看護記録とは②記載管理における留意点	三上
14	看護記録 ③看護記録の構成	三上
15	筆記試験	三上

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ		
担当教員	畑中 亜希美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	前期	1	30
履修目的・授業概要			
患者をとりまく環境や、患者にとっての活動・休息の意味を理解し、健康的な生活を送るための基本的な知識と、科学的根拠に基づいた援助方法を習得する。			
到達目標			
1. 健康生活の維持や疾病からの回復に環境が果たす役割がわかる。			
2. 活動・休息の意義を理解し、援助の根拠を理解する。			
3. 原理・原則に基づいて安全・安楽・安寧な援助を提供するための技術を習得する。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）技術試験（30％）			
学生へのメッセージ			
患者さんが安全で穏やかに過ごすことができるよう、生活環境を整えることは最も基本的な看護援助の一つです。また、活動や睡眠を助け、心身の苦痛の緩和に努めることは、患者さんの疾病の回復にもつながります。看護の基礎となる大切な看護技術を一緒に学んでいきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	環境調整技術 療養生活の環境/病室の環境のアセスメントと調整	畑中
2	環境調整技術 ベッド周囲の環境整備	畑中
3	環境調整技術 環境整備・ベッドメイキング 演習	畑中
4	環境調整技術 ベッドメイキング 演習	畑中
5	環境調整技術 ベッドメイキング 演習	畑中
6	環境調整技術 環境整備・ベッドメイキング 演習	畑中
7	活動・休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術 よい姿勢・ボディメカニクス・ポジショニング	宗像
8	活動・休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術 体位変換・ポジショニング 演習	宗像
9	活動・休息援助技術 臥床患者のリネン交換 演習	宗像
10	睡眠・休息の援助	宗像
11	活動・休息援助技術 移動介助、移乗・移送	宗像
12	活動・休息援助技術 車いす・ストレッチャー 演習	宗像
13	グループワーク 演習計画立案	宗像
14	看護技術総演習 演習	宗像
15	技術試験 ベッドメイキング 履修認定	畑中 宗像

科目名	基礎看護学方法論Ⅵ		
担当教員	細川 とき子 畑中 亜希美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	前期	1	30
履修目的・授業概要			
人の生命維持や生活に重要な意味を持つ食事と排泄について、対象の状態に応じた援助を決定するアセスメントの方法と援助の実践を学ぶ。			
到達目標			
1.対象の栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメントの方法を理解する。			
2.経口・非経口的な食事介助の基礎知識と援助の実践を学ぶ。			
3.排泄の意義とメカニズム、アセスメント方法を理解する。			
4.自然排尿、導尿の基礎知識と援助の実践を学ぶ。			
5.自然排便、排泄を促す援助、ストーマケアの基礎知識と援助の実践を学ぶ。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
「食えること」「排出すること」の意味を学び、対象の尊厳を尊重した看護についても考えて行きましょう。そして、健康的な生活を送るための具体的な援助方法を皆さんと共に学んでいきたいと思いま			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	食事援助の基礎知識① 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント	細川
2	食事援助の基礎知識② 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント	細川
3	食事援助の基礎知識③ 1.医療施設で提供される食事の種類と形態 2.食事援助の基礎知識	細川
4	食事摂取の介助 ①援助の基礎知識 ②援助の実践 演習	細川
5	非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法 ②中心静脈栄養法	細川
6	非経口的栄養摂取の援助 演習 ①援助の実践（胃管挿入・栄養物注入）	細川
7	排泄援助の基礎知識① 排泄状態および排泄能力に対するアセスメント 自然排尿および自然排便の介助の基本姿勢	畑中
8	排泄援助の基礎知識② 排泄介助の実践	畑中
9	自然排尿および自然排便の介助の実践① 演習 （オムツ交換）	畑中
10	自然排尿および自然排便の介助の実践② 演習 （トイレ介助）	畑中
11	排尿困難に対する援助 ①一時的導尿 ②持続導尿 ③膀胱留置カテーテルの管理	畑中
12	排便困難に対する援助 ①排便を促す援助の基礎知識 ②ストーマケア	畑中
13	排尿・排便を促す援助 演習 ①導尿 ②浣腸 ③摘便	畑中
14	看護技術総演習	畑中
15	筆記試験	細川 畑中

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ		
担当教員	三上 美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
清潔の意義を理解し、各清潔援助の援助方法を習得する。 衣服を身につけることの意義を理解し、寝衣の交換方法を習得する。			
到達目標			
1.清潔の意義、留意点を理解する。 2.清潔の基本的な援助を実施することができる。 3.衣服を身につけることの意義、寝衣交換の留意点を理解する。 4.基本的な寝衣交換と制限のある方にたいする寝衣交換を実施することができる。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）技術試験（30％）			
学生へのメッセージ			
人にとっての清潔行動の意味をとらえ、看護の対象にとって安全で安楽な援助を実践するための知識・技術・態度を学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	清潔の援助の基礎知識	三上
2	衣生活の援助 援助の基礎知識と実際	三上
3	2.清潔援助の実際 ①入浴・シャワー浴 援助の基礎知識と実際	三上
4	②-1全身清拭 援助の基礎知識	三上
5	②-2全身清拭 援助の実際	三上
6	②-3全身清拭 援助の実際	三上
7	③-1洗髪 援助の基礎知識	三上
8	③-洗髪 援助の実際	三上
9	④手浴 援助の基礎知識と実際	三上
10	⑤足浴とフットケア 援助の基礎知識と実際	三上
11	⑥-1陰部洗浄 援助の基礎知識	三上
12	⑥-2陰部洗浄 援助の実際	三上
13	⑦整容	三上
14	⑧口腔ケア	三上
15	筆記試験 技術試験	三上

科目名	基礎看護学方法論Ⅷ		
担当教員	矢野 優子 原田 明奈 宗像 祐二		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
呼吸・循環機能に異常をきたした人へ援助の方法を学ぶ 創傷治癒を促進するための創傷管理と褥瘡予防の方法を学ぶ 救急対応時の知識と救急・急変患者への迅速な対応方法を学ぶ 診察・検査・処置を受ける患者の苦痛や不安を理解し、援助においての看護師の役割を学ぶ 死にゆく人と家族の心理を理解し、看取りのケアと死亡時の看護を学ぶ			
到達目標			
1.酸素吸入、一時吸引の目的と方法を理解し、呼吸機能に異常をきたした人への援助を習得する 2.体温調節、末梢循環促進への援助の目的・方法を理解し、循環に異常をきたした人への援助の実際を理解する 3.創傷の治癒過程を理解し、創傷管理の方法を習得する 4.救急対応の考え方、急変時における初期対応の流れと救命処置の実際を理解する 5.診察・検査・処置時の看護師の役割と介助の方法を理解する 6.看取りのケアと死亡時の看護を理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
解剖生理の知識から、援助の理解を深めていきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	気道管理 ①気道管理の基礎知識 ②気道管理の援助の実際（安楽な呼吸、体位ドレナージ、咳嗽介助、吸入）	矢野
2	吸引 ①一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引の基礎知識	矢野
3	吸引 ②一時的吸引の援助（技術演習） 口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引	矢野
4	酸素療法 ①酸素吸入療法・人工呼吸療法の基礎知識	矢野
5	酸素療法 ②酸素吸入療法の援助（技術演習） 酸素ポンプの取り扱い 中央配管からの酸素吸入	矢野
6	循環を整える援助 ①体温管理 ②末梢循環促進の援助	矢野
7	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法 援助の基礎知識	原田
8	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法 演習	原田
9	創傷管理 ①創傷管理の基礎知識 ②創傷処置	宗像
10	創傷管理 ③包帯法（技術演習）	宗像
11	褥瘡予防 ①褥瘡予防の基礎知識	宗像
12	褥瘡予防 ②体圧分散ケア（技術演習） 体位変換 ポジショニング	宗像
13	診察・検査・処置 ①診察の介助 ②検査・処置の介助	宗像
14	死の看取りの援助 ①死に至るまでの過程 ②死後の処置	宗像
15	履修認定	矢野 原田・宗像

科目名	地域・在宅看護概論		
担当教員	大橋 正敏		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
地域・在宅看護の対象は、健康レベルやライフステージなどがさまざな「あらゆる人々」であり、医療施設のみではなく、地域の「あらゆる場所」で行われる看護である。人々の暮らしに注目した講義・演習を行います。			
到達目標			
1.看護からみた地域の捉え方を理解する			
2.地域で暮らしている人々の生活とその多様性を理解できる			
授業の形式・方法			
講義・グループワーク・DVD視聴			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(60%) レポート (40%)			
* 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
急激な高齢化が想定される2025年問題を境に、病気に罹ってから病院へ行き治療をするという病院完結型の考えから、在宅での療養生活へとシフトしていく地域完結型医療への移行は急務となっています。病院以外での看護師の活躍の場は増えてきています。みなさんには現在の社会情勢を理解し、在宅での看護師の役割について学んでほしいと思います。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	河原加代子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	人々の暮らしと地域・在宅看護 DVD視聴	大橋
2	地域・在宅看護の基盤となる考え方	大橋
3	地域・在宅看護に求められる役割	大橋
4	地域・在宅看護の重要性と看護師の役割 DVD視聴「訪問看護サービス」	大橋
5	地域包括ケアシステムと地域共生社会 グループワーク・発表	大橋
6	人々の暮らしを理解する 暮らしを支援する看護師の役割	大橋
7	地域・在宅で生活する高齢者が陥りやすい機能低下と予防	大橋
8	履修認定	大橋
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	成人看護学概論Ⅰ		
担当教員	大橋 正敏		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
成人期にある対象の特徴を理解し、成人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護の基本的な考え方や方法を学ぶ。			
到達目標			
1.成人期にある対象を理解する 2.保健・医療・福祉システムの概要と連携の重要性について理解する 3.患者と看護師の人間関係の構築とそのプロセスを学ぶ 4.倫理的判断の基盤となる倫理上の基本原則・および看護師の倫理規定について理解する 5.患者・家族の意思決定を支える看護について学ぶ			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
成人看護学 の概要や基本的な考え方の学習になります。成人看護に対する理解を深め、この単元の学習以降に続く、成人の健康レベルに応じた看護の学習に繋がってください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院	

[illegible]

科目名	老年看護学概論		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
高齢者の特性をさまざまな側面から理解する。 高齢者の健康について学ぶ。高齢者疑似体験等を実施しながら、高齢者への理解を深めます。			
到達目標			
超高齢社会の様相、高齢者の倫理的課題を理解する。 老年看護の役割を理解する。 高齢者の身体・心理・社会的側面の加齢変化を理解する。 高齢者に対するヘルスアセスメントの方法を理解する。			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％）レポート（20％）			
学生へのメッセージ			
高齢者疑似体験を授業の中で行います。 高齢者の時代・生活背景から高齢者を理解する目的でレポートを作成します。 講義・演習の順が変わることがあります。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	
老年看護病態・疾患論	鳥羽研二	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	老いるということ、老いを生きるということ	細川
2	超高齢社会と社会保障	細川
3	超高齢社会における老年看護への期待	細川
4	老年看護のなりたち	細川
5	高齢者の生理的特徴（1） 老化の捉え方 老化とは 老化と原因 認知・知覚機能	細川
6	高齢者の生理的特徴（2） 呼吸・循環機能 消化・吸収・代謝	細川
7	高齢者の生理的特徴（3） 排泄機能 免疫機能 運動機能	細川
8	高齢者の生理的特徴（4） 高齢者疑似体験	細川
9	高齢者の生理的特徴（5） 高齢者疑似体験	細川
10	老年症候群（1） 老年症候群の特徴 急性疾患に付随する症候	細川
11	老年症候群（2） 慢性疾患に付随する症候 ADL低下と密接な関連をもつ症候 フレイル	細川
12	高齢者のヘルスアセスメント	細川
13	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（1） 高齢者のフィジカルアセスメント	細川
14	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（2） バイタルサイン測定・身体測定 栄養評価 高齢者総合機能評価	細川
15	履修認定	細川

科目名	小児看護学概論		
担当教員	福原 緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
子どもをとりまく社会との関連と子どもの人権から、小児看護の役割を理解する。 子どもの健康の保持増進・疾病の予防について学習する。また、これからの小児看護についても概観する。			
到達目標			
1. 看護倫理と子どもの権利を考えることができる 2. 小児看護の役割と責務について考えられる			
授業の形式・方法			
講義 グループワーク スライド発表			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％） 不合格者は再試験とし再評価			
学生へのメッセージ			
教科書を読みながら受講、復習しましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	小児看護の特徴と理念 小児と家族の諸統計	福原
2	成長と発達の法則、区分 グループワーク	福原
3	運動発達、遊びの発達、離乳食 グループワーク	福原
4	グループワーク発表	福原
5	理論（愛着、認知発達、ライフサイクル） ボウルビィ、ピアジェ、エリクソン	福原
6	子どもの権利と倫理 法と条約、倫理原則	福原
7	成長と発達の評価 体格、骨格、発達の評価方法	福原
8	履修試験	福原
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	母性看護学概論		
担当教員	澤田 みどり		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
母性の概念を通して、母性看護の対象とその基盤となる社会の動向を学ぶ			
到達目標			
1. 母性看護の対象と視点を理解する			
2. 母性看護職の職責と法的義務、倫理的配慮について理解する			
3. 母性看護で用いられる理論を理解する			
4. 母性看護に活用する統計・法律・施策を理解する			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
日頃から、母子保健に関わるニュースや親子関係などについて、意識して情報収集してみてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論	森 恵美	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	母性とは セクシャリティー	澤田
2	母子関係と家族発達 愛着・母子相互作用と母子関係形成	澤田
3	母子関係と家族発達 家族機能	澤田
4	リプロダクティブヘルス／ライツ ヘルスプロモーション	澤田
5	母性看護のあり方 母性看護における倫理	澤田
6	社会の変遷と現状 母性看護の変遷／指標とその推移	澤田
7	母性看護に関わる法律・施策 母性看護の提供システム	澤田
8	履修認定	澤田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	精神看護学概論		
担当教員	坂井 聖康		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
精神看護学は個人の身体的・精神的健康問題にアプローチし、回復と予防に向けて治療やケア、リハビリテーションといった課題にも取り組む。同時に社会的関係のありようを問うことであり、精神障害者の人権擁護や社会の変革という課題に目を向ける重要性を学ぶ。また、人に対する想像力や倫理観をはぐぐむことを目指す。			
到達目標			
1) 現代社会における精神看護・看護ニーズの高まりの背景を知る			
2) 精神看護の基本的な考え方を理解する			
3) 人間の心の構造と発達、心の諸活動や自己が形成される過程を理解する			
4) 精神疾患・障害と地域・文化との結びつきを知り、その多様性、個別性と普遍性を理解する			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
予習をして授業を受けるようにしてください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の基礎	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	心のケアと現代社会	坂井
2	精神の健康とは	坂井
3	精神障害のとらえ方	坂井
4	ストレスと健康の危機	坂井
5	人間の心の諸活動	坂井
6	関係のなかの人間	坂井
7	精神障害と文化・精神障害と社会学	坂井
8	履修認定	坂井
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		